

昨年9月に厚生労働省から再編・統合を促す予定の公立・公的病院424病院のリストが公表され、今も病院の在り方について議論が続いています。リストには自治体が経営する中小病院が多く、手術などの診療実績が少ないことから「再編・統合の議論が必要」と判断されたようです。医療費の効率的な運用を目指したものでしょうが、公立・公的病院は病院全体の2割しかなく、また公立・公的病院は、戦後より離島や人口の少ない地方や採算がとりにくい分野など、民間医療機関の進出が見込めない地域・分野での医療提供を担ってきた歴史があります。一方で、民間医療機関の努力が良好な医療整備に大きく貢献したといえますが、病院の適正な機能および配置を検討するには、病院全体の8割を占める民間医療機関を含めた議論は避けられないでしょう。わが国の病院数は令和元年5月現在で8,324病院ありますが、国土が日本の25倍あるアメリカは6,000以下です。また、日本の病院は200床未満の中小病院が全体の約7割と多いのも特徴です。病院の偏在が僻地医療問題につながり、中小病院の多さから医師など医療従事者が分散されています。高齢者の増加による医療需要の増大が始まっており、医療機関の適正な配置と運用はわが国の喫緊の課題です。

今月の特集は「小児消化器疾患—最近の話題」で

す。下痢、嘔吐など消化器症状は日常的に経験しますが、消化器疾患の病態生理はすべて解明されたとはいえません。以前、腸内細菌叢を基にした粘膜免疫とアレルギー疾患とのかかわりについて研究を進めたことがありますが、消化管の粘膜免疫の働きは局所のみならず全身の免疫機能やその形成に重要な役割を担っており、当時この分野に大きな可能性を感じました。最近の話題として、腸内細菌のトピックスはもちろん、小児の便秘症といった身近な疾患からミトコンドリア腸症、ピロリ菌感染症、内視鏡検査、生物学的製剤、あるいは若年性ポリポーシス、脂肪性肝疾患、生体肝移植まで、幅広く話題がまとめられています。是非お読みいただきたい特集です。

綜説欄は「腎臓病へのDOHaDの影響」です。成人において増加が指摘されている慢性腎臓病(CKD)の起源が胎児期、周産期、乳幼児期の環境に影響されるというDOHaD学説が概説されており、興味深く拝読しました。

診療欄やトピックス欄、症例欄も、いずれも興味深い論文で日常の小児科診療に大変参考になります。

インフルエンザ流行の季節となりましたが、本誌が出る頃には終息しているでしょうか。忙しい毎日のお休みのひと時に本誌をお楽しみください。

(河野 陽一)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第2号 2月号

2020年2月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金

定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。